

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771601941		
法人名	株式会社 イワノ		
事業所名	グループホーム きさく苑吹田		
所在地	大阪府吹田市内本町1丁目17-17		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成22年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・職員の7割が常勤の勤務体制となっている 利用者様に安心してゆったりと過ごして頂けるよう、職員同士の雰囲気にも気をつけ居心地のよい空間作りに努めている。</p> <p>・毎食、食事は手作りで温かい物が提供でき利用者様の食べたい物のリクエストに答える事が可能である、白米は農家から直接買い付け、こまめに精米しているので定評がある 誕生日には手作りケーキと尾頭付きの鯛でお祝いしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2～3階で1ユニット構成の建物構造上の制約があるが、管理者、職員は過ごしやすい居住環境作りの工夫に努めている。食事も手作りで、食材選びや味付けも高齢者の嗜好に配慮している。利用者個々の介護計画を現状に即して作成し、ホームでの看取りの事例もあり、安定した生活支援を行っている。地域行事参加やホームのアクティビティ、季節の催しなど、暮らしの中の取り組みも定着している。落ち着いた市街地の立地環境なので、ホームの特色を柔軟に活用することで、さらに地域交流の場としての展開の可能性も今後期待できる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を創り、事業所全体で理念に向けた事業運営に取り組んでいる。	「地域とのつながりを大切にしながら、LIVEその人らしさを大切に・LOVE一人ひとりを思いやり・LIFE楽しく居心地のいい暮らし」を事業所理念に定め、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入し、回覧板などから地域の情報を得て、積極的に行事に参加している。近隣の方とは顔なじみとなっており、互いに挨拶をしている。	地元自治会の敬老会参加や、祭り、近隣の寺院の催しや小学校の運動会を見物に出かけるなど、地域との交流を行っている。自治会の廃品回収活動などにも協力して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市と他事業者が協賛で、介護保険制度の展示会開催しており、取り組みに参加している。又、地域の方から介護サービスについて相談を受けることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの現状や、自己・外部評価結果などを報告、出席者と意見交換しサービスの向上に努めている。	会議は本年は4月に開催し、自治会長、民生委員、地域包括センター職員、介護相談員、家族、利用者、職員の出席で事業所活動・行事報告や災害時の地域協力などにつき意見交換している。	運営推進会議は基準省令で概ね2ヶ月に一回以上と開催を定めており、取り組みを工夫して会議の増回を図ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員による部会が定期的であり、情報交換に努めている。	行政主催のグループホーム関係の連絡会への参加、介護相談員の訪問、要介護認定更新申請代行や認定調査の調整などで、市介護保険担当部署と連携・交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面に配慮しながら身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関は防犯上施錠しているが、職員には鍵をかけることの弊害を説明している。	身体拘束がやむおえない場合について、重要事項説明書に明示し、同意を得ている。2階～3階の居住階移動の制限はないが、安全重視の立場から日中は一階玄関を施錠している。	玄関施錠は、「指定基準で禁止対象となる11項目の具体的な行為」との認識を共有し、抑圧感の弊害と安全に留意し、日中の玄関開錠の柔軟な工夫検討が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に繋がることがないように、職場環境を良くしていくよう努めている。高齢者虐待防止法に関する情報を収集し、職員に指導を行い見過ごすことがないように、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで学び、必要な方には利用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、疑問点などないよう理解されるまで充分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口を明記している。家族とはコミュニケーションを取るようになり、意見などあれば反映できるように努めている。又、利用者が意見や不満を言いやすいように職員から声をかけたり介護相談員の受け入れを行っている。	家族等の訪問時や、随時の電話連絡の機会に要望意見を聞き、運営に活かしている。個別に利用者の生活状況・健康状態等を毎月、文書で報告している。介護相談員が月2回定期訪問している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、意見を聞く機会を設け運営に反映させている。	毎月定例の職員ミーティングで、利用者個別のカンファレンスを行い、運営に関する要望、ケアの改善に関する意見等を出して検討する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう、各自が目標を掲げ、やりがいを見出せるよう指導し実績や勤務状況を十分に把握し、給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に支障がない限り外部研修に参加し、そこで得た知識を職員会議で伝授し、又、報告書の提出も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者連絡会に加入し、他のグループホームと情報交換を行っている。職員には、グループホーム同士の交流会への参加を促がしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は事前に面談を行い、本人と家族からサービス時の不安や疑問点、要望など話す機会を十分に設け、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の様子をこまめに報告、その上で家族の不安や求めていることなどの要望を聞き、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向に沿った対応が出来るよう、会話から情報を収集し、必要としているケアを見極めサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を大切に、職員と利用者が一緒に過ごす時間を多く持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの家族関係が途切れないように、家族も参加できる行事や、面会などの時間を共有し、共に支え合える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が面会に来られたり、地域の行事に参加し、馴染みの人に再会するなど関係が途切れないよう支援している。	住み慣れた近隣地域からの入居者もあり、敬老会などの行事で旧友と歓談される機会もある。家族、知人の面会交流は毎週や、月単位で保たれており、職員は関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格をよく知り、トラブルや孤立することのないよう、さりげなく間に入り、円滑な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した利用者にも、時折訪問するなど、継続した関わりが持てるように努めている。又、相談にも応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を傾聴し、家族とも相談しながら意向に沿えるよう、職員での話し合いの場を持ち、情報を共有している。	日々の暮らしの支援の中で、本人の思いや要望を直接聞いたり、周辺症状の意図を汲み取り、職員で情報を共有して本人本位のケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から、フェイスシートを基に生活歴などの情報収集を行い、職員全員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて、日々の生活状況を個々に把握し、職員が情報を共有している。申し送りや、業務日誌なども用いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望をその都度聞き、月1回のケアに対する会議の場で話し合い、ケアプランに反映させている。	毎月の職員会議でのカンファレンスをもとに、モニタリングを行い日々のケア計画をたてて、実行と見直しを行っている。アセスメントは6ヶ月毎、ケアプランは3ヶ月毎の評価と見直しを基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン表、介護経過記録を用い、ケアの向上を図ると共に、個人記録に日々の様子や対応を記入し、情報を共有しながら、適切な援助を心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や希望に応じて、外出の支援や病院受診の支援など、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行い、個々の能力に応じた活動を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回かかりつけ医の往診を受けている。利用者の状態に応じて、個々の往診も可能になっている。夜間は他の医療機関を受診している。	現在の入居者は全員、同意の上で提携内科医がかかりつけ医となっており、月一回の往診を受けている。歯科、眼科、精神科等の専門医には、主に職員同行で外来受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師や訪問看護を受け入れていない為、医師との連携を蜜にとるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と必要な情報交換を行い、本人の状態の把握に努めている。医療相談担当者と連携をとり、早期退院に向けて家族とも話し合いの場を持つようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について説明し、終末期のあり方については家族の意向に沿うように同意書を頂いている。関係者との連携を蜜にとり、チームケアに取り組んでいる。	ホームで重度化、看取りのケアを、家族の同意を文書で得て、医師・家族・職員の協力で方針を共有しながら行った事例がある。管理者は指針作成を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、心肺蘇生や応急手当などの初期対応の指導をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。災害時には近隣の協力を得られる体制となっている。	消防署の協力のもとに、今年は避難訓練を1回行っている。地域自治会の協力体制の仕組みもある。スプリンクラーの設置を予定している。	他施設の災害事例に学び、年2回の法定訓練の実施および、建物構造を考慮して、特に夜間災害の安全対策を重点に、避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや、日常のケアについて職員に指導し、利用者が不快な思いをされないように配慮している。	プライバシー保護のマニュアルを作り、新人研修を行っている。日々の生活で、利用者の認知症周辺症状に対して、否定や指示的対応をしないよう、尊厳を重視したケアを管理者は指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気や心がけ、楽しみながら自己決定が出来るような場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールは設けているが、利用者のペースに合わせた対応を心がけ希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院に訪問して頂いている。出来る限り本人に服を選んで頂き、常に清潔を保てるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、調理や食器拭きなどの片付けを職員と共に行っている。利用者と職員と一緒に食卓を囲んでいる。	職員が献立を考えて、食材の購入、調理を行っている。食器洗い、拭きなどが可能な利用者もいる。職員は利用者のサポートをしながら共に摂食している。キザミ、とろみ付け、減塩なども対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を毎食記録し、利用者の状態に応じ、キザミ食、ペースト食、水分にトロミをつけるなどし、対応している。不足している場合は補食し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔にしている。利用者の状態に合わせた口腔ケア用品を使用し、定期的に歯科受診されている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目指し、排泄時間を記録パターンを把握し、誘導を行っている。利用者の中には尿意、便意の感覚を失っていた方が、トイレで排泄出来るようになった。	排泄のパターンを記録し、リズムを把握して支援することで、殆どの利用者はトイレで排泄できている。入院により排泄レベル低下した方を、トイレ排泄まで支援回復させた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量を把握し、乳酸菌飲料の摂取や身体を動かす運動を行うようにし、便秘解消に向けて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を行っている。曜日は決めず、利用者の個々の活動や、その日の状態などに合わせ支援している。	主に、午後の時間帯で週3回の入浴確保を目安に行っている。拒否の利用者には理由を検討し、工夫して入浴誘導している。清拭、足浴などで清潔保持の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごし、夜眠れるよう生活のリズムを整えている。安眠できるよう、室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能などを明記した服薬リストを作成しており、職員が把握出来るようにしている。症状に変化があれば介護記録に細かく記入するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	持てる力を活かし日常的にレクリエーションや家事作業を行っている。又、外部よりボランティアを招き書道、手芸、読み聞かせの時間を設けている。利用者の中には喫煙を楽しまれ方もおられ今までの生活習慣を継続出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年2回外出行事を計画したり、地域の行事にも参加している。日常的にも買い物や、散歩に出かける機会を設けるようにしている。外出困難な方も家族と一緒に出かけられるよう、年1回食事会を開催している。	散歩、喫茶店、玄関前の清掃などで外気に触れる気分転換の近隣外出の機会を作ったり、外食や季節の行事などで、遠出も計画し実施している。毎月、家族と墓参に出かける方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金を管理されている方もおられる。買い物の際は職員が付添い、支払の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホーム内の電話を利用して頂き、家族といつでも連絡が取れるようにしている。又、年賀状のやり取りなど、家族との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の際は大きな音を立てず、テレビを消し、音楽を流すなどして居心地のよい空間作りを心がけている。ホーム内は季節に応じた飾りつけをするように工夫している。	2～3階で1ユニットの構造上の制約があるが、くつろげる共用空間作りの工夫をしている。明るい日差しのリビング部分に、ソファや畳で落ち着けるスペースを設け、季節の観葉植物も飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあり、靴を脱いでくつろげる空間を設けている。2階、3階にソファを置き、好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物に囲まれて居心地よく過ごせるよう、家族とも相談し、自由に持ち込んでいただいている。	居室入り口に自室がわかるよう、手作りの表札を掛けている。室内は夫々、家族の写真や思い出の品々を飾ったり、テレビ、調度品等を置き、落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物品の位置に配慮し、事故防止に努めている。トイレや浴室など、わかりやすく表示し、不安や混乱を最小限に止めるよう工夫している。		